

給料を上げる政治に 転換する コータロー

アベノミクスの「毒矢」が大阪を襲う

「アベノミクスは、私らのところには、まわってけえへん」——ちまたにこんな声があふれます。それどころか、安倍首相がすすめているのは、「投機とバブル」で物価をつりあげたり、「毒矢」がズラリと並びます。



「アベノミクス特区」で カジノ?! 「混合診療」?!

「解雇自由」「名ばかり正社員」も

大阪では橋下市長とも手を組み、「アベノミクス特区」構想を計画。「法人税の減税」から、保険の効かない「混合診療」を認める、さらに「カジノ」誘致、小中学校の「民営化」まで——。これでは格差と貧困が大きくなるばかりです。

さらに「解雇自由化」や「名ばかり正社員」づくりで、失業や非正規率の高い大阪の雇用をさらに深刻にします。

消費税増税で 9700億円もの府民負担増 中小企業にも大打撃

「アベノミクス」の毒矢の一つ——消費税が10%に増税されれば、どうなるでしょう。

大阪府民の新たな負担総額は年間9700億円。大阪中の百貨店の年間総売上高を上回るものです。庶民から買い物する力は奪われ、中小企業は消費税を転嫁できず、「商都大阪」は大打撃を受けます。

くらしと景気回復—— コータローの4つの改革プラン

たつみコータローは、消費税増税を中止し、給料をあげて庶民のふところをあたため、仕事も増やす。そんな政治を実現します。

1 賃上げと安定雇用の拡大を

デフレ不況打開は給料をあげてこそ——立場の違う経済学者も口をそろえます。大企業の内部留保は260兆円に達します。その1%でその企業の労働者に月1万円の賃上げができ、くらしも経済もよみがえります。

3 高齢者も現役も安心の 社会保障を

日本共産党は、まず年金・医療・介護など壊された社会保障をよみがえらせ、次の段階では「最低保障年金の実現」や「窓口負担ゼロの医療制度」など、抜本的にひきあげる展望と政策をもっています。

2 財源は、消費税に頼らない 「別の道」で

ムダな公共事業や軍事費、原発関連予算や政党助成金などを削るなら、社会保障を立て直す財源はでできます。そして、増税するなら大金持ちに。私たちは、こうして12～15兆円の財源を生み出せると考えています。

4 TPPストップ。健全な成長を もたらす産業政策を

非正規の労働者が40%以上も占める大阪。働くルールを確立し、労働者の「使い捨て」はやめさせます。中小企業に、賃金をあげることができるよう支援をすすめます。農業、医療、雇用をつぶすTPPに反対します。

「日本共産党の 提言は経営者必読」

——大阪での経済懇談会で

昨年日本共産党大阪府委員会が開いた「経済懇談会」で、ゲストスピーチをした小池俊二・サンリット産業会長（日本商工連盟大阪地区代表世話人）は、消費税増税を中止し、別の道で社会保障と財政再建をはかるという日本共産党の提言は「経営者必読」と語りました。

生活相談 7000件 格差是正へ、 突っ走るコータロー

たつみコータローは、此花区の生活と健康を守る会事務局員として、9年間に7000件もの生活相談を受け、解決のために奔走しました。

「身寄りのない高齢者が認知症になり、家賃を払えず追い出されようとしている」「子どもを抱えて離婚したが、元の夫も仕事がなく、養育費がもらえない」——コータローの携帯電話には昼夜を問わず、相談の連絡がはいりました。

こうした貧困と格差の広がりなかで、「社会保障のセーフティネットが崩れ、いったん仕事を失えば、誰もがそこに落ち込んでしまいかねない現実がある。おおもとにある政治を変えんとあかん」。これがコータローの政治活動の原点です。



日本を明るくするために……

此花生健会で約9年働き、生活保護をはじめ、さまざまな生活相談にあたってきました。相談者の感情をつかまえ、その人の立場に立って一緒に考え行動し、物事を解決していく力がありました。区役所や大阪市、大阪府との交渉でも、積極的に発言していました。社会保障改悪が差し迫った情勢の下、悪政を食い止めるために頑張っています。



全大阪生活と健康を守る会連合会会長
松岡 恒雄さん